

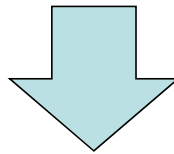
ボート競技会場の検討

- 全国ボートコース(70コース)と湖の中から抽出
 - ・日本ボート協会が国際大会の開催会場となるA級コースとして認定
 - ・近隣(首都圏)で2000mの競技コースが確保可能

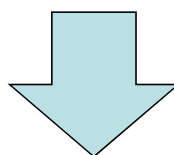
- 海の森水上競技場を含めた10か所について、施設敷地の確保、選手村、レガシー等の観点から比較検討

**【参考】 日本ボート協会
コース規格規定**

- A級コース
 - ・競技コース 2000m
 - ・レーン数 6レーン以上
 - ・最大流速 10cm/秒
 - ・国際大会の開催
- B級コース
 - ・レーン数 5レーン以上
 - ・最大流速 20cm/秒
 - ・全日本選手権、国体開催の開催
- C級コース
 - ・レーン数 3レーン以上
 - ・最大流速 30cm/秒
 - ・地域予選会の開催



	施設名	場所
①	長沼ボート場	宮城県登米市
②	潮来漕艇場	茨城県潮来市
③	彩湖	埼玉県戸田市
④	戸田漕艇場	埼玉県戸田市
⑤	海の森水上競技場	東京都
⑥	相模湖漕艇場	神奈川県相模原市
⑦	河口湖	山梨県南都留郡
⑧	長良川国際レガッタコース	岐阜県海津市
⑨	大阪浜寺コース ※	大阪府高石市
⑩	芦田川漕艇場	広島県福山市



海の森水上競技場

※競技団体からの情報によりA級コースに準じるコースとして、検討に加えた

ボート会場整備案の比較(1/2)

施設名	① 長沼ボート場	② 潮来漕艇場 (常陸利根川)	③ 彩湖	④ 戸田漕艇場	⑤ 海の森水上競技場
	宮城県登米市	茨城県潮来市	埼玉県戸田市	埼玉県戸田市	東京都
競技場水域の確保	・直線で2,000mのコース、ウォームアップコース、回送路の確保が可能	・直線で2,000mのコースと回送路を確保できないため、河川断面の一部堀削が必要	・直線で2,000mのコースと回送路を確保できないため、調節池の一部堀削が必要 ・調節池内に立入禁止区域(保護区、貯水池機場及び流入堤付近)がある。	・2,000mのコースの回送路の確保ができないため、多くの建築物等の移設や陸域の掘削、河川断面の一部変更が必要	・東西水路(延長3,000m、幅員200m)を活用 ・水位に干満差があるが、両端を締切ることに対応
施設敷地の確保	・コースに沿った陸地がないため、カメラレーン・自転車走行路・観客席等は、水上棧橋の設置により対応 ・アクセス道路が狭いため、拡幅工事が必要 ・諸施設・インフラ整備のため、用地買収・借受が必要 ・民地の用地買収に時間的に大きなリスクがある。	・カメラレーン・自転車走行路・観客席等は、水上棧橋の設置により対応 ・河川区域内であるため、治水上、利水上の支障が生じないものとする必要がある。 ・諸施設・インフラ整備のため、大規模な用地買収・借受が必要 ・民地の用地買収に時間的に大きなリスクがある。	・カメラレーン・自転車走行路・観客席等は、水上棧橋の設置により対応 ・河川区域内であるため、治水上、利水上の支障が生じないものとする必要がある。 ・諸施設・インフラ整備のため、大規模な用地借受が必要 ・陸域掘削箇所には野球場など市の公園施設があり、多くの利用者がいるこれらの施設を撤去する必要がある。	・諸施設・インフラ整備のため、大規模な用地買収・借受が必要 ・民地の用地買収に時間的に大きなリスクがある。	・北側の防波堤を活用して自転車走行路を設置 ・土地は、全て都有地のため、用地買収が必要ない。
選手村	・分村の整備が必要(周辺に選手村に対応したホテルがないため、新設が必要)	・分村の整備が必要	・分村の整備の必要なし	・分村の整備の必要なし	・分村の整備の必要なし
レガシー	・交通の便が悪く、周辺に大学や企業もないため後利用が困難 ・冬季は湖面が凍結するため、通年利用は不可	・治水上、利水上の支障が生じないものとする必要があり、容易に撤去できる仮設とした場合、レガシーが残らない。	・治水上、利水上の支障が生じないものとする必要があり、容易に撤去できる仮設とした場合、レガシーが残らない。	・現在も漕艇場として利用されているため、恒設施設は、レガシーとして活用可能	・隣接する海の森と連携し、都民のスポーツ・レクリエーションの拠点としての活用が見込まれる。 ・周辺施設と連携した環境学習の拠点としての活用が可能
整備主体	恒設 ・都外のため、協議が必要	・都外のため、協議が必要	・都外のため、協議が必要	・都外のため、協議が必要	・東京都
費用分担	仮設 ・大会組織委員会	・大会組織委員会	・大会組織委員会	・大会組織委員会	・大会組織委員会
その他、 (開催運営リスク、 周辺への影響等)	・オオハクチョウ・ガン等の越冬地(飛来地)のため、会場工事に懸念	・洪水期の洪水調整、農業用水源により水位変動があるため、施設の撤去・再設置等が必要になる場合がある。 ・川辺に葦区域があり、自然・鳥類保護の観点から環境健全について配慮が必要	・洪水警戒時などは、水位変動に備えて、施設の撤去・再設置等が必要になる場合がある。 ・彩湖中央にある管理橋が支障となるため、落橋させて機能を回復させる必要がある。	・工事中・大会中は、現在のボート利用を止める必要がある。 ・コース上にある戸田公園大橋が支障となるため、落橋させて機能を回復させる必要がある。	
概算整備費	351億円※ (恒設) 50億円 (仮設) 301億円 ※その他分村整備の費用が必要	388億円※ (恒設) 77億円 (仮設) 311億円 ※その他分村整備の費用が必要	558億円 (恒設) 202億円 (仮設) 356億円	1714億円 (恒設) 1690億円 (仮設) 24億円	519億円 (恒設) 491億円 (仮設) 28億円

ボート会場整備案の比較(2/2)

施設名	⑥ 相模湖	⑦ 河口湖	⑧ 長良川国際 レガッタコース	⑨ 大阪府立漕艇 センター(浜寺)	⑩ 芦田川漕艇場
	神奈川県相模原市	山梨県南都留郡	岐阜県海津市	大阪府高石市	広島県福山市
競技場水域 の確保	・直線で2,000mのコース確保ができないため、湖岸の掘削が必要	・直線で2,000mのコース確保ができないため、湖岸又は島の掘削が必要	・直線で2,000mのコース、ウォームアップコース、回送路の確保が可能 ・河川上流からの流木等のごみの常時除去が必要	・直線で2,000mのコース、回送路の確保ができないため、既存施設の撤去等が必要 ・水位に干満差があるが、両端を締切ることに対応	・直線で2,000mのコース、ウォームアップコース、回送路の確保が可能 ・河川上流からの流木等のごみの常時除去が必要
施設敷地 の確保	・カメラレーン・自転車走行路・観客席等は、水上栈橋の設置により対応 ・諸施設・インフラ整備のため、大規模な用地買収・借受が必要 ・民地の用地買収に時間的に大きなリスクがある。	・カメラレーン・自転車走行路・観客席等は、水上栈橋の設置により対応 ・諸施設・インフラ整備のため、大規模な用地買収・借受が必要 ・民地の用地買収に時間的に大きなリスクがある。	・カメラレーン・自転車走行路・観客席等は、水上栈橋の設置により対応 ・河川区域内であるため、治水上、利水上の支障が生じないものとする必要がある。 ・諸施設・インフラ整備のため、用地借受が必要	・護岸を活用して、自転車走行路、カメラレーンを設置 ・諸施設・インフラ整備のため、大規模な用地借受が必要	・カメラレーン・自転車走行路・観客席等は、水上栈橋の設置により対応 ・河川区域内であるため、治水上、利水上の支障が生じないものとする必要がある。 ・諸施設・インフラ整備のため、用地借受が必要
選手村	・分村の整備が必要	・分村の整備が必要	・分村の整備が必要（名古屋駅周辺ホテルの活用）	・分村の整備が必要（大阪市周辺ホテルの活用）	・分村の整備が必要（福山駅前ホテルの活用）
レガシー	・周辺に大学や企業がないため後利用が困難	・周辺に大学や企業がないため後利用が困難	・治水上、利水上の支障が生じないものとする必要があり、容易に撤去できる仮設とした場合、レガシーが残らない。	・現在も漕艇場として利用されているため、恒設施設は、レガシーとして活用可能	・治水上、利水上の支障が生じないものとする必要があり、容易に撤去できる仮設とした場合、レガシーが残らない。
整備主体	恒設 ・都外のため、協議が必要	恒設 ・都外のため、協議が必要	恒設 ・都外のため、協議が必要	恒設 ・都外のため、協議が必要	恒設 ・都外のため、協議が必要
費用分担	仮設 ・大会組織委員会	仮設 ・大会組織委員会	仮設 ・大会組織委員会	仮設 ・大会組織委員会	仮設 ・大会組織委員会
その他、 (開催運営リスク、 周辺への影響等)			・降雨・台風時の警戒時などは水位変動に備えて、施設の撤去・再設置等が必要になる場合がある。	・近接する漁港の関係者との調整が必要	・降雨・台風時の警戒時などは、水位変動に備えて、施設の撤去・再設置等が必要になる場合がある。 ・芦田川大橋を通る車両等の通行規制が必要
概算整備費	351億円※ (恒設) 50億円 (仮設) 301億円 ※その他分村整備の費用が必要	351億円※ (恒設) 50億円 (仮設) 301億円 ※その他分村整備の費用が必要	352億円※ (恒設) 24億円 (仮設) 328億円 ※その他分村整備の費用が必要	519億円※ (恒設) 491億円 (仮設) 28億円 ※その他分村整備の費用が必要	352億円※ (恒設) 37億円 (仮設) 315億円 ※その他分村整備の費用が必要